

主体的に運動に取り組み、日常的に運動の楽しさを味わうことのできる子供の育成

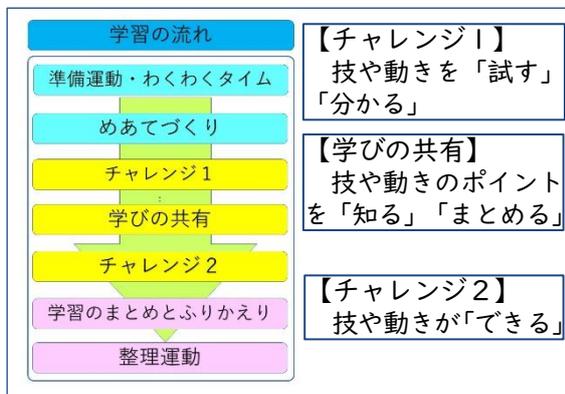
～人・家庭・地域と関わり合いながら～

いちき串木野市立市来小学校
教 諭 迫 幸 江

1 体育科授業での取組

(1) 一単位時間の指導過程の工夫

一単位時間の指導過程を共通のものにしたことで、子供が見通しをもって学習に取り組めるようになった。また、主運動につながる運動の時間「わくわくタイム」を設定し、楽しく学習に取り組む体と心づくりを行った。



(2) 学び合いの設定とICT活用

モデル動画の視聴や自分の動きを知るための撮影など、積極的にタブレットの活用を図った。タブレットを活用したことで、モデルと自己の動きの違いに気付き、自らの動きを調整することができた。また、自分の納得できる試技を録画したものを提出させるようにしたことで、粘り強く取り組む姿勢が見られるようになった。



【モデル動画の視聴】



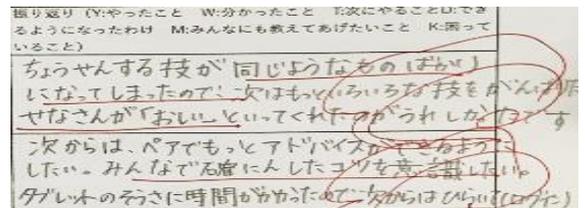
【動きの撮影】

(3) 「自分のめあて」の設定と振り返り

自己の学びを調整しながら学習するために

は「自分のめあて」の設定が必要である。学習カードの基本的な運動のコツを参考にしながら「自分のめあて」を立てて学習に取り組ませた。

また、主体的な学びにつながるように「振り返りの視点」を示し、一単位時間の学びと向き合い、次時へのつながりを意識させた。



【子供の振り返り】

(4) 場づくりの工夫

体育科の年間指導計画を見直し、同じ時期に同単元を配置し、学年会で週の時間割を確認することで、準備や後片付けの時間短縮を図った。

また、自分で練習場所を選べるように様々な場の工夫を行ったことで、子供たちが場を改良し、意欲的に運動に取り組む姿が見られた。



【跳び箱運動の場】



【マット運動の場】

2 教科外体育での取組

(1) 校内環境の整備

「ちょっとしたことでも、意識を変えれば運動になる」をコンセプトに、校内に運動につながる「しかけ」を施した。



【廊下でラダー】



【廊下でジャンプ】

(2) 委員会活動の取組

運動委員会が中心となり、ぴよんぴよん大会（長縄大会）に向けての練習の呼びかけや、異学年で遊ぶイベントの運営などを行った。運動に向かう様々な取組によって、「やらされる」運動から「やってみたい」運動になり、楽しんで取り組む姿が見られた。

3 家庭・地域との連携

(1) 家族みんなで一運動カード

各学期に家族で運動を意識する週間を設定した。カードには、「体力向上プログラム（家庭編）」を載せて参考にできるようにした。

☆「家族一運動」に取り組んだら、下のカレンダーに○をつけましょう。

5月25日 (土)	5月26日 (日)	5月27日 (月)	5月28日 (火)	5月29日 (水)	5月30日 (木)	5月31日 (金)
○	×	○	○	○	○	○

やってみた感想
長くバランスを保か
たいです、ゴソゴソマ
づけたいです。

家族から
バランスがよく取れるようになりまし
毎日の体操トレーニングに取り組んで
かまけてあげましょう。

【親子で感想を書く】

(2) 地域の人材活用

子供たちにとって、専門的な指導をしてもらうよい機会となり、楽しく運動に取り組むことができました。また、持久走大会では、消防署の方々が伴走してくださり、持久走が苦手な子供たちも最後まで頑張って走り抜くことができました。

(3) 幼稚園との交流

幼稚園児に縄跳びや長縄跳びの跳び方を教え、一緒に跳ぶことを楽しむ交流活動を設定した。（3年 総合的な学習の時間）



【長縄跳びに挑戦】

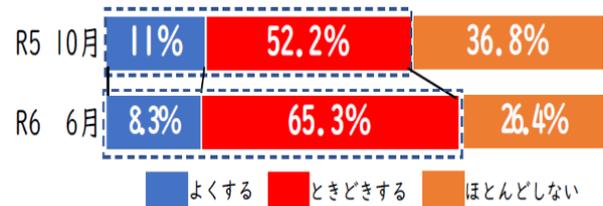


【縄跳び遊び】

4 成果と課題

(1) アンケート等の結果

ア 親子で運動をすることがありますか。



イ 保護者からの意見



(2) 研究の成果

ア 年間指導計画に、同時期同単元の学習を組んだり、補助運動や技の系統表を作成したりしたことで、学年の系統を意識した授業づくりが可能となり、資料の共有や準備時間の削減につながった。

イ 「市来サーキット」や運動の場の設定により、休み時間だけでなく教室を移動する際なども自然と体を動かす機会が増えた。

ウ 家族で一緒に運動に取り組む機会を設定したことで運動量が増えただけでなく、会話をする機会も増えた。

(3) 研究の課題

ア 高学年になるにつれて、体育や運動に前向きな気持ちで取り組む子供の割合が減る傾向にある。運動に対して「できる」だけではない、多様な関わり方を示し、楽しさにつながる手立てを考える必要がある。

イ 子供が主体的に学習に取り組む授業を進める中で、評価方法について更に研究していく必要がある。

ウ 生活習慣の確立など健康面でのアプローチも検討する必要があるため、学校保健委員会との連携も密に図りたい。